地域おこし協力隊の活動日記

飛騨市内で活動している地域おこし協力隊員
市内に存在するさまざまな地域資源を活用し、地域の特色を活かした産業の創出を図ります

地域の資源を活用したものづくり
隊員　森口　明子

飛騨市の皆様、こんにちは！

飛騨市地域おこし協力隊の森口明子（もりぐちあきこ）です。東京から移り住み、早一年半が経ちます。飛騨市の山や空気、水、そして何よりひとが大好きです。

これから飛騨市の皆さんともっと親しくなって自然を楽しむ遊び方や、衣食住、手づくりで暮らす生活を実践したいと思っています。

さて、私の協力隊としての仕事は「株式会社飛騨の森でクマは踊る」が運営する「FabCafe hida」を中心に、国内外を問わず世界中の人と飛騨市の皆さんとをつなぐことです。

今回はイスラエルのデザイナーであるオリとマヤの滞在記をご紹介します。

オリとマヤは世界中を訪問し創作活動を行なっており、デジタルテクノロジーと訪問先の国々の文化との融合をテーマに様々な作品を生み出しています。そして今年は森の豊かな飛騨市にやって来ました。

イスラエルは砂漠地帯で森は国土のわずか7パーセントほどだそうです。彼らは飛騨市の面積の9割を占める森という宝物を活用し、伝統技術である組み木を取り入れることと、地域に何か還元できる活動をしたいという思いで今回創作活動を行いました。その一つは名付けて「床の間プロジェクト」。これは、日本家屋に必ずある床の間というスペースを異邦人の視点で活用すること。非常に面白い視点なのですが長くなるので詳しくは FabCafe hida のブログ（http://fabcafe.com/hida/blog/strangersinaroom）をご覧ください。

▲オリさんが制作した床の間家具

もう一つは、地域文化・資産とデジタルを融合させたものづくり。彼らには2歳になる子シフィーがいますが、水が大好きなシフィーが古川町の瀬戸川に魅了されている様子を見てこう思いました。「この街には美しい川が多く、それを住民は大切にしている。その美しい川の魅力を再認識すると共に、外へ発信できる機会を作れないか」と。さらに、FabCafe hida に多くの子供達が訪れるのを見ていて、「子供達が飛騨市の宝物である木に触れ、何かを作る機会をつくりたい」と考えました。そして8月4日「瀬戸川キッズボートレース」が実現しました。

参加してくれたのは6組の親子。子供達にはまず FabCafe のレーザーカッターで加工した木のボートキットが渡されます。次にパーツに好きな色を塗り、紙で作った帆に好きなイラストを描き、最後に組み合わせて船にしました。塗料が乾いたらいざ瀬戸川へ！

レースがスタートするとみんな自分のボートを追いかけます！色とりどりのボートが瀬戸川を流れ、やがてゴールイン！自分のボートを拾い上げ、みな大変満足げでした。

この小さなイベントを通じて、地域の資源や環境を活用して、飛騨で脈々と受け継がれるものづくりの楽しさを子供達に教えるということは、飛騨市の未来のものづくり、街づくり、環境づくりにつながっていくことを再認識しました。これからもどんどん異邦人と飛騨市の皆さんとを結びつけ、いろいろな「気づき」が生まれる場と機会を作り出していけたらと思っています。

▲ワークショップと瀬戸川ボートレース